

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（5月）

留学先：Clemson University

氏名：奥村颯太

【はじめに】

いよいよ帰国の日が近づいてきました。ルームメイトは帰省、旅行、短期留学で既にアパートを離れているため、今は静かになった部屋で1人この報告書を書いています。5月中旬現在で最高気温は連日30°C超で湿度も高く、時折セミの鳴き声が聞こえるようになったこともあり日本の夏を過ごしているように感じています。留学初日に泊めてもらい、その後も都度お世話になっていたホストファミリーに挨拶に行ったところ「これからもっと暑くなるからいい時期に帰るね」と言われました。秋学期からの留学を考えている人は最初の数週間の暑さは覚悟しておいた方がよさそうです。さて月例報告書最終回の今回は期末テストを含む近況と1学期間の留学で感じた自分の成長について書いて行きます。

【留学中に体調を崩したら】

ここまでの約4ヶ月を問題なく過ごしていた僕にはもう起こらないイベントかと思われていた留学中の体調不良ですが、期末テスト直前についにその日が訪れました。最初は授業を休んで水を飲んで寝ておけば治るだろうと思っていたのですが、丸1日経っても回復する気配がなかったため、保険会社のヘルプデスクに連絡して保険が適用できる近くの病院を紹介してもらいました。ちょうど週末だったので大学の病院やオンラインで日本語で診断を受けるサービスの利用はできなかったのですが、通訳なしの現地の病院でも特に問題なく診療を受けることができました。この経験からわかったことは、留学中の体調不良でまずいなと感じたらすぐヘルプデスクに相談するべきだということです。

【期末テストと最終成績】

僕が受講していた4つの授業のうち、初級スペイン語を除く3つは期末テストがここまでの成績が思わしくない学生の救済措置のような形式で、十分な成績が見込める学生についてはテストを受けるか選択することができました。課題、中間テストで納得いく成績が見込めていた僕はこれらのテストはパスしてスペイン語の勉強に集中することができ、結果としてElementary Spanish、Sustainability Leadership、Introduction to Sociologyの3科目でAを、Why Business?でBを取ることができました。唯一BのWhy Business?ですが、中間テストと期末テストでスコアが高かった方のみ成績に反映されるという形式から中間テストよ

り高い点を取れる気がしなかったことと、最後の2つのエッセイでは満点を取ることができていたので個人的には満足いく成績です。日本の大学のように期末テストや最終レポートで成績の大部分が決まるということがないため、普段の課題をしっかりとこなしていればいい成績に結びついてくれると思います。

【留学を通して感じた成長と変化】

・英語力

リーディング、ライティング、リスニングにはもともと自信があったため、そこまで大きく成長したという感覚はありません。逆に言えば、福井大学での英語開講授業から留学で得られるのと同等のリーディング、ライティング、リスニングを得ることができるということだと思います。これから留学を考えている方は是非日本にいるうちの英語の授業を頑張ってみてください。スピーキングについても、正直この5ヶ月弱では発音が劇的に良くなった、言いたいことが全て英語で言えるようになったというような成長は得られていないかなと思います。しかし、日常会話や授業中の発言などでより自然にスラスラと英語が出てくるようになったようには感じています。自分の中でいま自信が持てていない発音についても、ここアメリカ南部ではヒスパニック系の訛りが強い方が多く、初対面の方に留学を通して英語の練習をしていると伝えると「十分聞き取りやすいよ」と言ってもらえるので、いわゆる「ネイティブみたいな発音」というのはあまり必要ないのかなと感じています。

・異文化理解

異文化理解・コミュニケーション能力についても大きく変わったということはないように感じています。もともとあまり気にしない性格であることもありますが、パンデミック前の短期留学、異文化コミュニケーション・留学セミナーなどで学んだことが活かされ、慣れないルームメイトとの生活でもトラブルなく過ごすことができました。ここでも英語力と同様に、留学で成功するには日本の授業で教えられることをしっかり理解することが重要になると思います。

・環境への適応

以前の報告書でも伝えたようにクレムソン大学は学生のほとんどがアメリカ人で構成される大学で、留学生向けのサポートが充実しているとは言えません。そのため大抵の問題は自分で解決することが必要になります。その一方で、僕が住んでいたアパート近辺では大学のシャトルバス以外の公共交通機関は皆無で、車を持っていない留学生は基本的にどこへ行くにも誰かの助けを借りることが必要でした。簡単にいうと自分から動かなければいけないが、自分だけで動くことができないという環境です。以前の自分はその場の思いつきで1人で行動することも多く、トラブルが起きても1人で対処しようとするところ、また、他人の

意見に合わせて自分の思いを諦めてしまうところがありました。当初は自分1人ではできないことを認めて他人に頼ること、違う考えを持つ人に自分の意思を伝えることに抵抗もありました。しかしこれらのことができるようになってからはトラブルになること、トラブルを広げることなく、より充実した生活を送れるようになったように感じています。

・自分との向き合い方

アメリカは自由の国だとよく言われますが、実際その通りだと思います。これが正しい言い方かどうかはわかりませんが多くの日本の学生は何事も多数派に合わせる没个性的なところがあるように思います。一方でアメリカの学生は他人の目を気にせず学業も趣味嗜好もとにかく自由に自分がやりたいことを追求しているように僕の目に映りました。（たまに謎の同調圧力がかかる場面もありますが）そんな人たちに囲まれて暮らす中で、自分がこれから何をしたいのか、自分はなぜそうしたいのかを深く考えるようになり、SNSの存在が自分のやりたいことと他人に見せるためのものとを混同させていることに気づきました。どちらの生き方が良い悪いという問題ではありませんが、これからは自分が本当にやりたいことを追求していきたいと思っています。

これまで5回にわたってクレムソン大学で留学中の生活や体験を紹介してきましたが、これはあくまで僕個人の考えや経験です。クレムソン大学には本当にたくさんの学生がいて、様々な施設やクラブ、組織があります。住む場所、出会う人、取る授業、そしてちょっとした偶然によって留学生活は全く違ったものになります。これをみたあなたが留学先にクレムソン大学を選んでくれると嬉しいです。最後まで読んでいただきありがとうございました！



22歳の誕生日に友達が集まってくれました



テスト最終日には他の留学生とキャンパス中央の時計塔の内部の見学をしました



「クレムソンでの1番の思い出は？」とよく聞かれるのですが、とても順番なんてつけられないほどたくさん楽しい思い出ができた4ヶ月間でした！